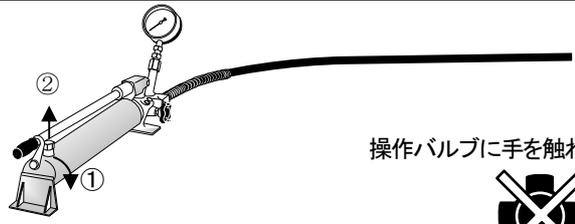
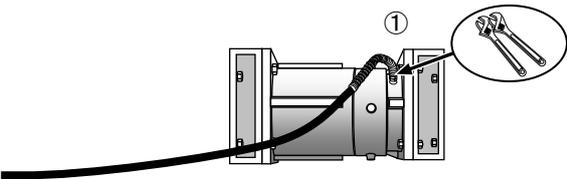
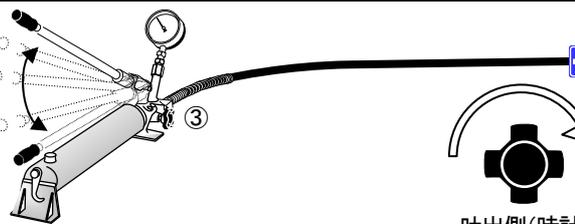
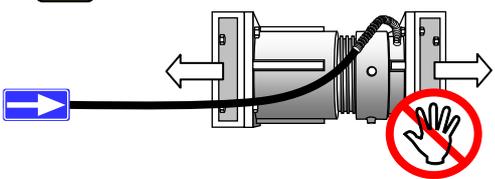
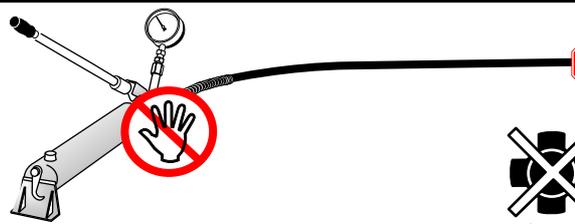
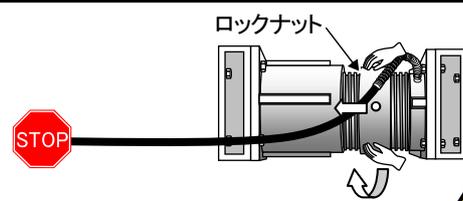
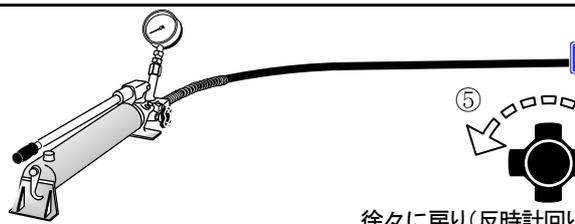
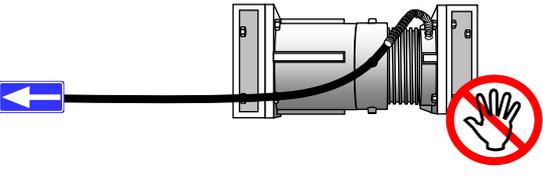
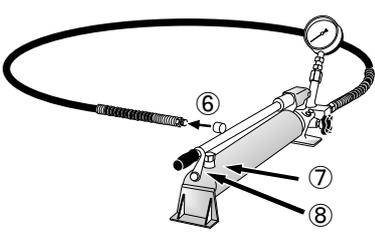
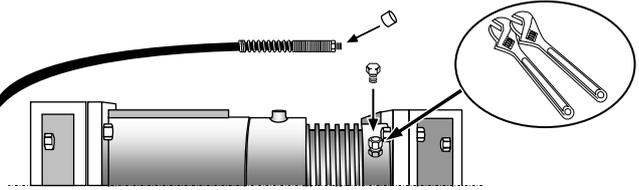


単動（H/U-type）加圧

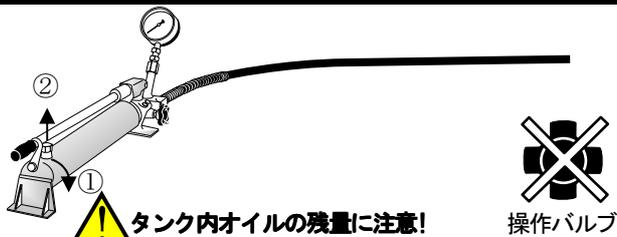
手動ポンプ（DP-2L）	手順	ユニバーサルジャッキ（H/U型）
 <p>操作バルブに手を触れない</p> <p>! タンク内オイルの残量に注意!</p> <p>① レバー（ハンドル）掛けを外します。 ② タンク給油口の蓋（六角プラグ）をゆるめ、タンク内に空気が入るようにします。</p>	<p>1. 加圧準備（配管）</p>	 <p>① ジャッキの注油口の六角プラグを外し、手動ポンプの高圧ホースをつなぎます。</p>
 <p>吐出側（時計廻り）</p> <p>③ 操作バルブを吐出（時計廻り）側へ廻します。 ④ 荷重計の値を見ながら設定加圧量、或いはストローク量になるまでハンドルを動かします。</p>	<p>2. 加圧</p>	<p>! 加圧・減圧中はジャッキから離れる</p>  <p>※ ジャッキ内部にオイルが送り込まれ、ストローク（ネジ部）が出始めます。</p>
 <p>操作バルブに触れない</p> <p>④ 所定の加圧量又は、ストローク量に達したら手動ポンプの操作を中断します。</p>	<p>3. ロック</p>	 <p>! 指の挟まれ注意!</p> <p>② ロックナットを、手で胴体側まで廻し、締めます。（※ 上図では、左方向へ）</p>
 <p>徐々に戻り（反時計回り）側へ</p> <p>! 急なバルブ操作は大変危険!</p> <p>⑤ ジャッキのロックが完了したら、操作バルブを徐々に戻り（反時計回り）側に廻し、圧力を抜いていきます。</p>	<p>4. ストローク量維持</p>	<p>! 加圧・減圧中はジャッキから離れる</p>  <p>※ 高圧ホースがたるみ始め、圧力が抜けて行くのがわかります。</p>
 <p>⑥ 荷重計の値が“0”になったら配管解体を始めます。 ⑦ タンク給油口の蓋（六角プラグ）を閉めます。 ⑧ レバー（ハンドル）掛けを掛けます。 ⑨ ホース先端に蓋（ダスターキャップ）を付けます。</p>	<p>5. 配管解体（片付け）</p>	<p>! オイルが飛び散った場合、速やかにウェス等で拭き取る!</p>  <p>③ 圧力が抜けきったら、注油口の高圧ホースをスパナで少しずつゆるめながら外します。 ④ オイル漏れ防止の為、ユニバーサルジャッキの注油口に蓋（六角プラグ）をスパナで締め、取付けます。</p>

単動（H/U-type）減圧

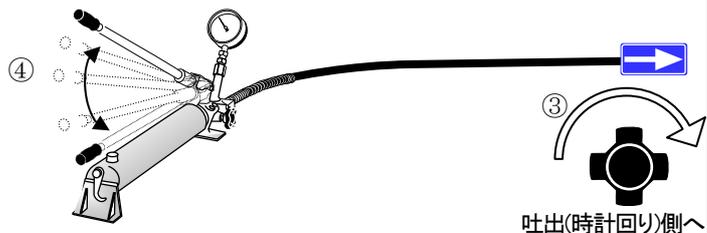
手動ポンプ（DP-2L）

手順

ユニバーサルジャッキ（H/U型）



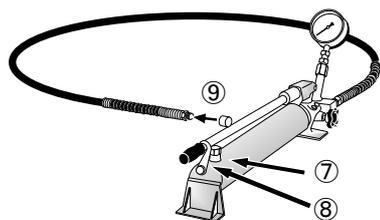
- ① レバー（ハンドル）掛けを外します。
- ② タンク給油口の蓋（六角プラグ）をゆるめ、タンク内に空気が入るようにします。



- ③ 操作バルブを吐出(時計回り)側へ廻します。
- ④ レバー（ハンドル）を操作し、ロックナットが手で廻せるようになるまで加圧します。

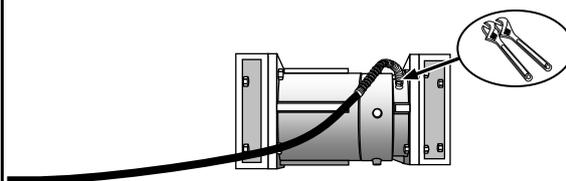


- ⑤ 操作バルブを徐々に戻り(反時計回り)側に廻すと、ジャッキ内のオイルがタンクに戻ります。
- ※ 戻ったオイルがタンクの給油口から溢れ出ることがあります。必要に応じタンク内のオイルを抜き取って下さい。
- ⑥ 荷重計の値が”0”になったら配管解体作業に移ります。



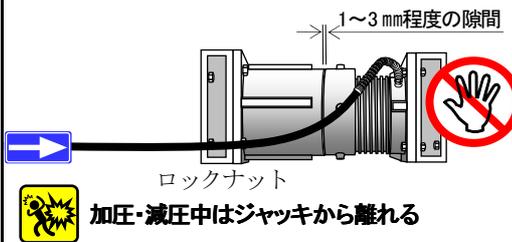
- ⑦ タンク給油口の蓋（六角プラグ）を閉めます。
- ⑧ レバー（ハンドル）掛けを掛けます。
- ⑨ ホース先端に蓋（ダスターキャップ）を付けます

1. 配管



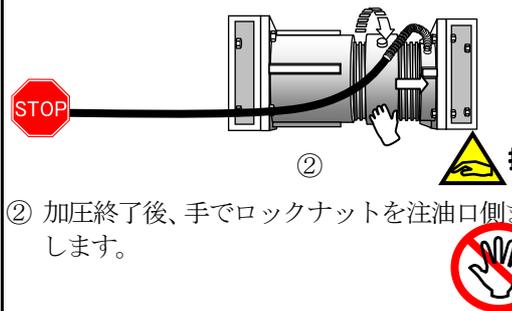
- ① ユニバーサルジャッキの注油口の六角プラグと、高圧ホースのキャップを外し、手動ポンプの高圧ホースをつなぎます。

2. 加圧



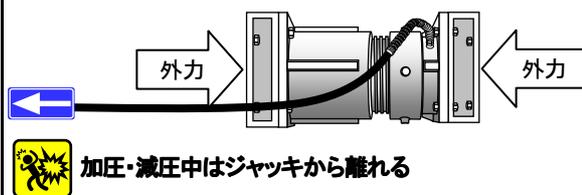
- ※ ユニバーサルジャッキが受ける外力とユニバーサルジャッキの反力が同じになれば、ロックナットがゆるみ、手で廻せるようになります。

3. ロック解除



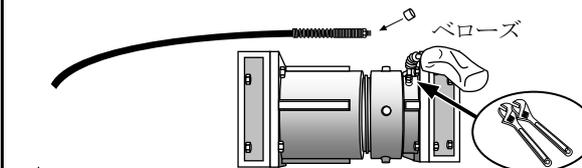
- ② 加圧終了後、手でロックナットを注油口側までいっぱい廻します。

4. 減圧



- ※ H/U型のユニバーサルジャッキは自体で戻る機構にはなっており、自体に受ける外力でストロークが縮みます。
- ※ ユニバーサルジャッキ、調整材、切梁等がボルトで接続され、減圧に依る落下が起きないことを確認して下さい。

5. 配管解体（片付け）



- ⚠ 周囲にオイルが飛び散った場合、速やかにウェス等で拭き取る!

- ③ 圧力が抜けきったら、注油口の高圧ホースをスパナで少しずつゆるめながら外します。
- ④ 必要ならば、ジャッキの注油口にベローズ（残油受）をスパナを使用し取付けます。このときベローズを手で潰し、内部の空気は抜いておきます。